

「支援団体のネットワークで進める 地域の日本語教育と多文化共生のまちづくり ～モデル地域3区での実践報告から～」

横浜市では、地域日本語教室や関連団体とのネットワーク構築などによる地域日本語教育の充実を進めるため、市内3区をモデル地域とし、区内の各団体等と連携しながら取組を進めています。

2022年度のモデル地域である磯子区・緑区・瀬谷区の活動報告を行い、市・区役所等、地域で外国人住民の関わる職員などにご参加いただきました。

基調報告「子どもから大人までの切れ目のない地域日本語教育の実現を目指して」では、日本国内の外国人住民の状況や地域日本語教育に関わる国の施策や法律、「横浜市域における地域日本語教育の総合的推進に係るアクションプラン」をベースに事業を通して目指す姿を説明しました。併せて横浜市内における外国につながる児童生徒数の現在の状況、子どもと大人に対する日本語教育の違いなどを講師の嶽肩さんからお話いただきました。

続く「活動報告『2022年度地域日本語教育推進モデル地域3区での取組』」では、緑区・磯子区・瀬谷区から、日本語教室の開催、支援者支援など取組の成果、課題、今後の多文化共生の推進に向けた取組報告がありました。その後、3区役所職員・YOKEの地域日本語教育コーディネーターによるディスカッションを通して多文化共生のまちづくりに向けた取り組みを考えました。

市内各地域における地域日本語教育の取組が広がるきっかけになれば、嬉しく思います。



タイトル

「支援団体のネットワークで進める地域の日本語教育と多文化共生のまちづくり モデル地域3区での取組」

講師

嶽肩志江さん
(横浜国立大学非常勤講師・
2022年度横浜市地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業プログラムアドバイザー)

報告者

2022年度モデル地域3区
磯子区地域振興課・緑区地域振興課・瀬谷区地域振興課
横浜市国際交流協会 (YOKE)

日時・ 場所

2023年8月30日 (水) 15:00-17:00
オンライン (Zoom)

参加者

51人

内容

基調報告
「子どもから大人までの切れ目のない地域日本語教育の実現をめざして」
活動報告「2022年度地域日本語教育推進モデル3区での取組」
報告者ディスカッション
よこはま日本語学習支援センターの活用例

参加者の声

- ・横のつながり、ネットワークの大事さを改めて感じた。
- ・モデル地域事業を展開した3年間の変化がよくわかった。
- ・区役所の情報を多言語や「やさしい日本語」で発信する重要性を感じた。
- ・モデル地域によって取り組みが様々で参考になる点が多々あった。
- ・大人の日本語教育と子どもではアプローチの仕方を変えなければいけないという視点に気づかされた。
- ・今後、所属するラウンジで多文化共生に関する意識や現状の取り組み、議題などを共有していきたいと思った。



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama Nihongo Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします！



2022年度横浜市地域日本語教育推進モデル地域 事業報告会

「支援団体のネットワークを進める

地域の日本語教育と多文化共生のまちづくり ～モデル地域3区での実践報告から～

嶽肩志江氏

<基調報告(要旨)>

「子どもから大人までの切れ目のない地域日本語教育の実現を目指して」



国内の在留外国人数は、過去最高を更新し、国では「生活者としての外国人」を対象とした地域日本語教育に関する法律・施策を推進しています。横浜市はYOKEのアクションプランにより、子どもから大人までの切れ目のない地域日本語教育(学習支援)環境の実現を目指し、さまざまな事業を展開しています。

横浜での多文化共生社会の実現のために、外国につながる人々を取り巻くさまざまな場や人が互いにつながり合うと共に、役所窓口、公的機関、専門家等とも連携しながら、それぞれの立場でできることを考え、実行していけたらと思います。その際に、外国につながる児童・生徒への日本語教育は、大人を対象にしたものとは違うアプローチを取り、配慮すべき点も異なることを認識しておく必要があります。

<活動報告(要旨)>

「日本語ボランティアブラッシュアップ研修(日本語教室体験)を中心に」

日常的なことばを学ぶ日本語教室を拡げていくことで、日本人との交流のハードルを下げ、地域の生活ルールの理解促進を図ることを目指しました。2022年度は、支援者にとっては日本語教室の体験、学習者にとっては日本語学習の機会となる「体験型日本語研修」として行い、参加者同士の交流の場ともなりました。国際交流ラウンジの活動等を通じて、引き続き多文化共生を進めます。

「支援者向け講座『日本語教室をとおして実現する多文化共生』を中心に」

活動中の人たちの声などから課題を把握し、ボランティア向け講座を開催。ボランティア人材の発掘と、スキルアップ機会の提供を行ってきました。2022年度は、国際交流ラウンジ開設を控え、多文化共生という枠組みの中で日本語教室やボランティアを考える機会としました。日本語教室連絡会の継続開催により、各教室と区役所・ラウンジがネットワーク化され、有機的に連携できるようになりました。

「親子向け日本語交流イベント」を中心に

生活情報入手ニーズがある方に、日本語教室等の情報が届いていないことなどを課題とし、まずは当事者につながることを目標に、親子向け日本文化体験イベントを2箇所で開催しました。地域の協力・理解が得られるなど関係者が広がり、また、外国人に直接、生活情報を届けることができました。多文化共生に係る情報交換会開催により、関係者・機関のネットワークづくりにも取り組みました。

<報告者ディスカッション>

講師の進行により、発表内容を踏まえたディスカッションを行いました。外国人当事者と直接つながれたり、地域の方から話を聞く機会ができたなど、以前より声が集められるようになったこと。区内で活動している団体のつながりができ、情報交換や連携が進むようになったこと。また、外国につながる方の活躍促進は、今後取り組んでいきたい点であることなど、取り組みを通じた成果、ポイントと感じたこと、今後の展望などを共有しました。



<よこはま日本語学習支援センターの活用例>

地域日本語教育の総合的な体制づくりを進める基盤となる拠点である、よこはま日本語学習支援センターを紹介しました。なかでも、個別訪問相談事業「まちなにほんご伴走隊」と地域日本語教育推進モデル地域事業の活用を紹介し、多文化共生のまちづくりに向けた協働をよびかけました。

緑区
地域振興課

磯子区
地域振興課

瀬谷区
地域振興課

横浜市
国際交流協会



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama NIHONGO Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営:公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします!

